

更生保護施設管理研修

1 日 時

令和6年12月16日（月）午前10時～同月17日（火）午後3時30分

2 場 所

法務省赤れんが棟 第6教室（東京都千代田区霞が関1-1-1）

3 研修員

更生保護施設に常勤する施設長（補導主任を兼任している者を含む。）のうち、施設長就任後、本研修開始時点でおおむね2年未満の者 12名

4 概 要

法務省保護局及び全国更生保護法人連盟の共催により、法務省赤れんが棟第6教室において、標記研修が行われた。本研修は、比較的経験年数の少ない更生保護施設の施設長について、施設の責任者として、業務の管理、処遇の企画、職員の統括及び地域社会との調整に必要な知識等の向上を図ることを目的として実施された。

初日の開講式、冒頭に押切法務省保護局長及び全国更生保護法人連盟今福理事長の挨拶があり、保護局振興課・更生保護施設施設長・外部講師による講義やグループ討議が行われ、講義終了後の修了式、全国更生保護法人連盟稲葉事務局長及び更生保護振興課守谷保護調査官の挨拶があり、2日間の研修が終了した。



押切保護局長挨拶



今福全更連理事長挨拶

挨拶

【第1日目】

○講 義「更生保護施設を取り巻く最近の動向と期待」

（講 師）：保護局保護調査官 守谷 哲 毅

※パワーポイントを使用してレジメとスライド資料により、更生保護施設の現況、人口推計と受刑者数の推移や施設の受入実績、第二次再犯防止推進計画、事業法等の改正と今後の更生保護事業の展開～フォローアップ・訪問支援事業、地域と連携した息の長い支援等に関して説明されたほか、更生保護施設に対する期待として、①

対象者に必要とされる施設（処遇施設化）、②地域に必要とされる施設（ニーズを踏まえた事業展開）、③更生保護関係者に必要とされる施設（事業者間の連携強化）を



まとめとして挙げられた。

○講 義「更生保護施設関係予算について」

(講 師)：保護局法務専門官 青 木 出

※パワーポイントを使用してスライド資料により、更生保護法人の経営状況及び委託費・施設整備費の構造等について解説された。



○講 義「更生保護施設施設長の役割」～施設におけるマネジメント

(講 師)：札幌大化院希望寮 施設長 山 田 憲 彦



※レジュメに沿って、更生保護施設担当官として経験から学んだ点、施設長の立場で考えること（トップ。中間管理職、チームリーダーなど）や求められる役割・業務～目標設置と経営戦略、経営資源の管理、業務管理と職員育成・評価等～、処遇などについて、職務体験や日頃の実践活動の中での経験談を紹介しながら、講義された。

○課題研究Ⅰ「更生保護施設におけるマネジメントについて」

(助言者)：札幌大化院希望寮 施設長 山 田 憲 彦

熊本自営会 施設長 岩 崎 健 朗

※研修員を3グループに分けグループごとに進行役、記録、全体発表者を決めた上で自己紹介を行い、まず、課題(1)「宿泊保護事業の根幹となる入所者の受入の促進に当たっての具体的な目標設定に向けたアプローチについて」に関して、実際の目標を基に、目標設定の理由や設定方法、目標達成に向けた工夫や課題等について事前提出した意見をグループ内で開陳しながら研究討議したほか、課題(2)「職員管理や職場環境に関して、施設において抱えている課題や工夫していること等、そして他の施設の参考となる点について」に関して、施設ごとに人材確保、職員の育成、職員間のコミュニケーション方法、職員のモチベーション向上策、業務効率化、休暇所得などについて意見交換しながらグループの意見を取りまとめ、最後に各グループの代表者が意見発表した。主な意見は、収容率目標は75～85%、帰住可率は35～50%程度に上げる。月々の収支を職員間で共有し経営意識の醸成、月例会議の開催、更緊対象者の積極的な受入、受入グラフによる見える化、民間警備会社との契約、声かけによる働きやすい職場環境づくり、時短・フレックスタイム制の導入など。その後、助言者から“担当制”“検察庁との関わり”“休暇取得”“後任者の育成”“定年延長”“体調管理”等々に関して感想・コメントがあった。

○講 義「更生保護施設施設長の役割」～施設の運営

(講 師) : 熊本自営会 施設長 岩 崎 健 朗



※レジュメに沿って、役員会の調整、役員の選任、施設・職場環境の整備、施設整備時の留意点、経営の安定～受入促進の方策、保護観察所との連携、職員の意識改革、職員確保の現状と対策、経理業務などについて、保護観察官としての職務経験や日頃の実践活動を通じて感じたことなどを紹介しながら、講義された。

○課題研究Ⅱ「更生保護施設の運営について」

(助言者) : 熊本自営会 施設長 岩 崎 健 朗

札幌大化院希望寮 施設長 山 田 憲 彦

※研修員を課題Ⅰとは別の3グループに分けた後、新たに進行役、記録、全体発表者を決めて研究討議を実施した。まず、課題(1)「更生保護施設における収入及び支出に関する課題や工夫していること」に関して、委託費以外の安定的な収入確保の方策やランニングコストの抑制方法など支出面での工夫や課題等について事前提出した意見をグループ内で開陳しながら研究討議したほか、課題(2)「その他運営に当たっての工夫や課題について」に関して、施設ごとに地域との関わり方や更生保護関係団体・関係団体との連携、施設建物の維持・管理及び短期的・長期的な施設整備計画の策定方法などについて意見交換しながらグループの意見を取りまとめ、最後に各グループの代表者が意見発表した。その後、助言者から調理員の確保、フードロスの支援品の活用策、施設整備計画と地域住民対策等に関してコメントがあった。

【第2日目】

○講 義「更生保護施設の処遇」～危機場面での対応

(講 師) : 清心寮 施設長 西 村 穰



※初めに清心寮の基本データとして施設概況を紹介した後、危機的場面の影響と基本的対応と題するレジュメに沿って“生じるダメージ”“施設長としての対応と心構え”について総論的に講義された。その後、危機的な各場面（疾病、コロナ等感染症、精神錯乱、争論や暴力行為等）での定期的な対応と実際の対応、施設長としての心構えについて講義された。

○課題研究Ⅲ「処遇における危機場面での対応について」

(助言者) : 清心寮 施設長 西 村 穰

※研修員を課題Ⅰ・Ⅱとは別の3グループに分けた後、新たに進行役、記録、全体発表者を決めて研究討議を実施した。課題「被保護者の問題行動への対応方法について」に関して、実際に対応に苦慮した各自の事例（寮生同士の喧嘩～警察・救急通報、飲酒等の規律違反～アルコールチェッカーの実施、覚せい剤後遺症・大麻使用の疑い～他施設の利用、無断外泊～門限違反時の施錠の可否、昼食弁当を巡るトラブル～暴力的な言動に対する態度、近隣からの苦情、精神錯乱～複数の職員での対応等）についてグループ内で開陳しながら対応方法を討議した。その後、助言者から危機場面では全職員での協力・対応が望ましい、職員の心が折れるようなことがないよう施設管理者のフォローが重要、保護観察官との連携等での対応等々に関してコメントがあった。



グループ討議1



グループ討議2



グループ討議3

○講 義「更生保護施設職員のメンタルヘルス」

(講 師) : Herling&RecoverInstitute 所長・飯盛会倉光病院アドバイザー

水 澤 都加佐



* ご自身の自己紹介と神奈川県立せりがや病院心理相談員の経験や病院アドバイザーとして相談経験等を基に対人援助の職業従事者に見られる精神的・情緒的な疲弊や「バーンアウト＝もえつき症候群」の特徴など例示しながら、施設職員のメンタルヘルス問題を解説されたほか、施設長という管理者側にも多くの心理的な負担やストレス過多による体調不調を抱えやすい立場にあると指摘された。また、“もえつき”に

陥る危険な兆候を例示しつつ、情緒的安定度のチェックリストによるセルフチェックや仕事で感謝、賞賛、評価を得て報われようとする背景が影響して職場でのバーンアウトにつながると説明された。最後に、自身のニーズを満たすセルフケアの重要性を強調され、仕事と私生活を分ける境界線を守って仕事をするのが大切であるとまとめられて講義終了となった。

○座談会；テーマ「他の施設長に聞きたいこと」

(助言者) : 保護局 守谷保護調査

保護局 青木専門官

: 全更連 稲葉事務局長

※研修員を3グループに分け、助言者の進行によりグループごとに、研修員から事前提出された質問事項（訪問支援事業の実施状況、施設面接の実情、収益事業の内容、理事との意思疎通、女性職員の雇用と配置、主任官の裁量、補導職員の待遇、定年延長への対応、大規模修繕事業の取組状況、地域交流活動の内容、補導援護の限界点、職員負担の平準化、保護観察所との連携、帰住可率向上の事例、夜間・休日の緊急対応等、経費節減の方策）等について個々に悩み事、相談、知りたい内容などを開陳しながら助言者から適宜コメントした。

※講義終了後に研修生から提出された振り返りシートの概要

(1) 講義に関する主な意見・感想

<更生保護施設を取り巻く最近の動向と期待>

- ・数値データが分かりやすく整理表現され理解しやすく参考となった。更生保護施設の最近の動向が分かりやすく整理された講義内容で、再認識できた。
- ・人口が減少し、高齢化が進み、矯正施設からの出所者が減少する中で今後の更生保護施設の取り組むべき活動内容について、方向性が示され大変参考になりました。
- ・更生保護施設の委託人員及び収容率が年々減少していること、各更生保護施設が種々の対策を講じていることを改めて確認することができました。そのような中、地域に開かれ、貢献する施設として更生保護施設が求められていることが分かりました。

<更生保護関係予算について>

- ・更生保護法人における平均的な項目毎の収支バランスを基に、これからの入所率を勘案し、正常な施設経営に繋げていきたい。
- ・更生保護施設への予算は自立準備ホームと比較して大きく、法務省の方々がいかに、更生保護施設を大切に考えて下さっていることを改めて感じました。オンライン面接ができるようになりましたが、対象者の空気感を感じとるため、現地面接予算の確保をお願いしたい。
- ・更生保護施設の予算全般についてご教示いただき有難かった。特に、施設整備費補助金は、施設整備にとって欠かせないものであり、観察所の指導を仰ぎながら、必要に応じて有効に使えるようにしていきたい。

<更生保護施設における施設長の役割（マネジメント）>

- ・先進的な施設長の話は大変参考となった。施設長としての考え方、施設運営等について大変参考となった。
- ・施設建物の修繕計画を立案しておくことの重要性がよく分かった。とても参考になった。

- ・施設長の役割として、更生保護施設の立場（社会との懸け橋）であることを忘れずに、地域の一員とし再構築し、更生保護施設の立ち位置を考えて経営に関わっていくことがよく分かった。

- ・施設運営の重要性だけでなく、職員を守っていくことの重要性を再認識させて貰いました。

<更生保護施設施設長の役割（施設の運営）>

- ・収容率が10%上がれば単純計算で500万円程度の増収が見込めると言う言葉にインパクトがあり、職員の動機付けに参考となった。

- ・施設が抱えている課題を一つずつひも解いて解説していただき、非常に有意義となりました。特に災害時の避難場所として周辺住民を受け入れたとの話は、感動しました。

- ・書面表決と書面議決の違いが良く分かり、参考となった。

- ・更生保護施設の現状、被保護者の動向、処遇の充実強化に向けたこれまでの施策及び予算、職員体制など、出所受刑者の減少にともなう受け皿の拡大、また、社会からの期待等について改めて認識を深めることができた。

- ・毎年80～100人が入寮している中、ここ5年間は再犯がないということでした。再犯率の高い当施設では考えられないことで、その取組みは参考になりました。また、職員にやる気を起こさせるため、給与等の処遇改善を図る等、様々な工夫がなされていることは大変参考になりました。

<更生保護施設の処遇（危機場面での対応）>

- ・飲酒によるトラブルや施設内での物品の紛失等、色々な場面での“危機”が想定される中で、全ての事項に当てはまるわけではないが、基本的に一般社会での生活対応（コミュニケーションを含む）に馴染ませる訓練のつもりで、注意・厳罰・指導

- ・助言を実施していきたいと思っている。

- ・各種場面を紹介され、それぞれの対応方法について丁寧に説明され、特に感染症発生時の対応については、参考になりました。

- ・どの施設も大小様々なトラブルはあるので、職員同士の信頼関係、職員・寮生の日頃のコミュニケーションが大切と改めて感じた。

- ・機場面の対応については、いつ起こるかわからず、夜間に起こる可能性もあるので全ての勤務者が対応できるようにマニュアルや訓練が必須であり、訓練を重ねることで、迅速・的確・冷静・組織的な対応力が向上できることが重要であると認識させられた。

- ・実務上生じる危機場面での対応事例に係る詳細な資料に基づいて説明していただき、今後の自らの職務に参考にしたいと思った。

<更生保護施設職員のメンタルヘルス>

- ・メンタルヘルスとは何か。症状を具体的に示され参考となった。また、チェック

リストも示された。施設職員は、施設長も含めて精神的重圧が大きい職場であり、日頃から職員の動向観察の必要性を感じた。

- ・施設長のみならず一般職員もメンタルヘルスを抱えているので、一般職員も受けさせたいと感じた。
- ・まずは自らのケアをすることの大切さを学ぶことができた。ややもすると、自分を後回しとすることが管理職には多いので、目から鱗が落ちた。
- ・更生保護施設職員のメンタルヘルスを取り上げてもらい、職員を守り運営していかなければならないこと、心にゆとりが無ければ適切な寮生支援ができないことを痛感いたしました。

(2) 本研修を今後の業務にどのように生かしたいと思いますか。

- ・施設の置かれている環境等について違いがあり、対応はそれぞれであったが、概ね同じような問題を抱えている。2日間の研修であったが、他の11施設長と同じ時間を共有できたことは良かった。今後も何らかの形で他の施設長と情報交換していきたい。
- ・入所者個々の、一定期間内での自立生活を迎えられるようにする支援業務を、職員の個性を交えながら、同じ方向に向かって指導及び援助に励み、入所率80%維持を目標に励みたい。
- ・研修中の課題研究で話し合った結果、一番大切なのは、各施設長の職務への情熱だと感じ、自らの職務への情熱不足を反省させられた。今後は、研修参加の熱い思いを手本とし、適切な施設運営をしていきたい。
- ・本研修を受講し、他施設の状況をお聞きするなどしたことで、各施設とも収容率の向上や施設運営において工夫されていること、業務管理の有り様等について認識を新たにすることができました。今後は、自施設でもできるところから徐々に活用していきたいと思います。
- ・身に着けた知見を今後の施設長業務に生かしていくとともに、持ち帰った参考資料を見返しながら日々の業務に反映させたい。

(3) 今後の研修で今後も継続した方がよい点、改善を要する点について

- ・課題研究の回答状況を一覧にまとめた資料が欲しかった（できれば事前に）。当日配布されたものでは12名の回答状況を読む時間が無く、進行や質問する上でまとめたものがあればよかった。研修日程表の字が小さく見えにくかった。
- ・研修日程は、12月開催は避けたい。研修規模については、馴染みやすく歓談しやすく、とても良いと思う。施設長としての管理全般に渡る項目が良いと思う。
- ・もう少し暖かい時期に、そして一日で終了した方が集まりやすい（遠隔地の施設では、計3日必要となるため）と思いました。
- ・充実した研修で満足しています。知らない施設長との出会いは大事と思えました。

他施設の意見を聴き、自分達の仕事は十分だったのか等反省する機会にもなりました。今回の研修については、今後も継続して頂き、知り合える機会をいただけると良いと考えます。

更生保護施設管理研修員名簿

番号	管轄委員会	所管庁	更生保護施設名（法人名）	氏名
1	北海道	釧路	釧路慈徳会	佐々木 秀 嗣
2	東北	青森	プラザあすなる	笹 森 康 之
3	関東	水戸	有光苑	藤 枝 貞 幸
4		東京	善隣厚生会	小 沼 孝 行
5		横浜	報徳更生寮	三 橋 登之治
6	中部	名古屋	愛知自啓会	西川原 靖
7			中協園	水 野 信 行
8	近畿	大阪	愛正会	平 原 俊 博
9		神戸	湊川寮	藤 山 高 広
10		和歌山	端正会	今 津 太 志
11	中国	岡山	備作恵済会古松園	藤 本 勉
12	九州	長崎	長崎啓成会	大 平 洋 一